

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 教員の個人研究費、図書費、研究専念時間を確保する。	→文部科学省科学研究費補助金、中央省庁などの外部資金獲得への申請件数、採択件数および獲得額。	B	B	B	B	B
2. TA、ゲストスピーカーを配置する。	→TA、ゲストスピーカーの人数。	B	B	A	A	A
3. 施設・設備検討委員会において講義室、パソコン教室といった教育研究等のための施設、設備の整備について検討する。	→各教室の利用頻度。	B	B	B	B	B
4. 資料室委員会において資料室の整備について検討する。	→資料室ののべ利用人数。	B	B	A	A	A
5. 実践教育支援室運営委員会において実践教育支援室などの教育研究等を支援する施設、教育研究支援体制の整備について検討する。	→実践教育支援室ののべ利用人数。	B	B	A	A	A
6. 研究倫理委員会設置を検討する	→研究倫理委員会設置の要綱等。	C	C	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究専念時間確保に向けて、各学科教員組織等において担当時間数の協議等を行っているが、2013年には各職階において時間数が減少したが、2014年度には若干増加している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 専任教員の担当授業時間(平均)は、講師を除き、教授、准教授、助教において2010年度より2014年度は増加している。年度により増減はあるものの全体として増加の傾向にある。なお、研究費については、文部科学省科学研究費補助金の2014年度の新規申請件数は2件、申請率(新規)は34%、採択件数(新規・継続)は11件であり、外部資金の採択件数は3件(厚生労働省科学研究費補助金2件、受託研究1件)である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か カリキュラム検討委員会においてカリキュラム体系や開講形態を見直すなどして、各教員の担当授業科目数を一定の水準に保ち、研究専念時間の確保に努める。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教学補佐、実験実習指導補佐・教務補佐、授業補佐、ゲストスピーカー、ラーニングアシスタントを採用し、教員のニーズに応えた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 教員のニーズに応える人数の確保を行っている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も必要に応じた人数の確保を維持・継続する。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度までは施設・設備検討委員会を設け、学部開設に伴う設置経費を用い、完成年度までの施設充実に努めてきた。そのため完成年度を越えた現在では、前記委員会は開催されていないが、必要な設備に関しては学部予算、学院予算を用い、教授会において適宜検討し、充実に図っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各学科を通してあげる要望について、学部において検討し、施設、設備の充実に図られている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも、必要な施設・設備の充実に努める。</p> <p>その他</p>	☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 資料室委員会を適宜開催し、資料室の整備(図書・資料の購入)を行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 年間4~6回の資料室委員会において課題の検討を行い、資料室の機能充実に図られている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも資料室委員会において資料室の整備、充実に努める。</p> <p>その他</p>	☆

目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 実践教育支援室運営委員会を年数回開催し、教育研究支援体制の整備並びにその施設の充実を図っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 月1回開催される実践教育支援室会議および年数回開催の実践教育支援室運営委員会において、教育研究支援体制の整備並びにその施設の充実が図られている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも実践教育支援室運営委員会において、教育研究支援体制の整備並びにその施設の充実を図る。	☆
		その他	☆
			☆
目標6	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究倫理委員会の設置に向けて、FD委員会、教授会で検討を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2012年度より研究倫理委員会の設置に向けた検討を行ったが、未だ設置には至っていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続きFD委員会、教授会で検討を行う。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【人間福祉学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	10	12	12	11	9	他に、人間福祉実習助手5 (2008、2009、2010、2011、2012、 2013、2014年度)
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	2	2	2	2	2	
		授業補佐	人	0	0	0	5	6	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	12.5	14.3	15.2	13.4	13.3	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	12.3	14.1	14.1	12.9	14.5	
		講師	時間	18.0	—	—	—	12.4	
		助教	時間	8.0	9.0	11.3	11.3	13.4	